

岡 病 防 第 14 号
令和 8 年 9 月 29 日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第 7 号を下記のとおり発表したので送付します。

令和 8 年度病虫害発生予報第 7 号

令和 8 年 9 月 29 日
岡 山 県

予報概評

作 物 名	病 害 虫 名	発 生 時 期	発 生 量
水 稻	トビイロウンカ	—	やや少
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	並
果 樹	カメムシ類	—	多
キュウリ	褐斑病	—	並
キュウリ・ナス	ミナミキイロアザミウマ	—	並
アブラナ科野菜	ハクサイ白斑病	—	やや少
	ハクサイべと病	—	並
	軟腐病	—	並
	黒腐病	並	並
	コナガ	—	並
	ヨトウガ	—	並
	アブラムシ類	—	並
	モザイク病	—	やや少
	ハスモンヨトウ	—	並
	ハイマダラノメイガ	—	並
キ ク	オオタバコガ	—	並
	ナミハダニ	—	やや多
	オオタバコガ	—	並

1. 普通作物

(水 稲)

(1) トビイロウンカ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月24、25日の巡回調査（中南部地帯）によると発生ほ場率は0％で平年（20.3％）より低かった。

イ. 赤磐市の予察灯における9月1半旬～4半旬の誘殺数は、2頭で平年（19.2頭）より少なかった。

ウ. 9月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

(ダイズ)

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は2,651頭で平年（2636.6頭）並であった。

イ. 9月3、4日の巡回調査によると白化葉（被害葉）の発生ほ場率は6.0％で平年（20.6％）より低かった。

ウ. 9月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

2. 果 樹（全般）

(1) カメムシ類

予報内容

発生量 多

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における9月1～4半旬の誘殺数は、クサギカメムシは0頭（平年8.2頭）と平年より少なく、チャバネアオカメムシは189頭（平年85.2頭）、ツヤアオカメムシは1539頭（平年126.9頭）と平年より多かった。

防除上の参考事項

ア. 9月下旬以降主要種はツヤアオカメムシである。

イ. 病害虫発生予察注意報第1号（令和8年5月19日発表）参照。

ウ. 植物防疫情報第4号（令和8年8月24日発表）参照。

3. 野 菜

(キュウリ)

(1) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月15日の巡回調査によると発生ほ場率は71.4％で、平年（85.6％、過去10年のうち6年間は100％）よりやや低かった。

イ. 9月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや助長する条件である。

(キュウリ、ナス)

(1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月15、17日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

(1) ハクサイ白斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月15、17日の巡回調査では発生を認めず、発生ほ場率は平年(18.3%)より低かった。

イ. 9月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 秋作では生育中期から結球期に初発生することが多いので、初期防除を徹底する。

(2) ハクサイべと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月15、17日の巡回調査では発生を認めず、発生ほ場率は平年(3.3%、過去10年のうち9年間は0%)並であった。

イ. 9月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(3) 軟腐病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月15、17日の巡回調査によると、ダイコンでは発生を認めず、発病ほ場率は平年(18.4%)より低かった。ハクサイでは発生を認めず、発生ほ場率は平年(1.0%、過去10年のうち9年間は0%)並であった。

イ. 9月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや助長する条件である。

(4) 黒腐病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月15、17日の巡回調査によるとキャベツ、ハクサイともに、平年同様

発生を認めなかった。

イ. 9月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや助長する条件である。

(5) コナガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は1頭で、平年(2.4頭)並であった。

イ. 9月15、17日の巡回調査によると、ダイコンでは発生ほ場率が0%で平年(56.4%)より低く、キャベツでは0%で平年(6.0%)並、ハクサイでは0%で平年(1.0%)並であった。

ウ. 9月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

(6) ヨトウガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月15、17日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

(7) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量	アブラムシ類	並
	モザイク病	やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の黄色水盤における9月1～4半旬の飛来数は213頭で平年(1131.1頭)より少なかった。

イ. 9月15、17日の巡回調査によると、ダイコンでは発生ほ場率が0%で平年(7.4%)よりやや低く、キャベツでは0%で平年(3.3%)並、ハクサイでは0%で平年(0%)並であった。

モザイク病は、ダイコンでは発生を認めず発生ほ場率は平年(22.1%)より低く、ハクサイでは発生を認めず発生ほ場率は平年(0.9%)並であった。

ウ. 9月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

(8) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は2,651頭で平年(2637.6頭)並であった。

イ. 9月15、17日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

(9) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 並
予報の根拠

ア. 9月15、17日の巡回調査によると発生量は平年並であった。

イ. 9月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

(10) オオタバコガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける 9 月 1 ～ 4 半旬の誘殺数は 1 頭で、平年 (2.5 頭) 並であった。

イ. 9月15、17日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

4. 花 き

(キ ク)

(1) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 9月15、17日の巡回調査によると発生ほ場率は57.1%で、平年(17.0%)よりやや高かった。

イ. 9月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

(2) オオタバコガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける 9 月 1 ～ 4 半旬の誘殺数は 1 頭で、平年 (2.5 頭) 並であった。

イ. 9月15、17日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

